看　護　部

1．スタッフ

看護部長　　山本　治美（やまもと　はるみ）
副看護部長　井原　国代（いはら　くによ）
　　田邉　菜穂子（たなべ　なほこ）
　　本田　万里子（ほんだ　まりこ）
　　村上　理恵子（むらかみ　りえこ）
看護師長　　34 名
副看護師長　72 名
看護師　802 名、看護補助者　92 名

2．看護部理念

私たちは一人ひとりを尊重し、安全安心で信頼される看護に最善を尽くします

3．令和６年度目標

A. 安全安心で質の高い看護を提供する
　a. 多職種と協働し、患者の意向を尊重した看護を実践する
　b. 看護の専門性を高め、質を追求する
B. 健康で安全な、活気ある職場環境を整備する
C. 地域に密着した継続看護を展開する

4．管理・運営

1）看護部職員配置

看護部管理室（臨床試験支援センター含む）	看護部長	1
	副看護部長（総務、教育、業務、質管理）	4
	看護師長	7
	看護部管理室付看護師長	(1)
	医療の質・安全管理部看護師長	(1)
	看護職キャリア支援センター・外来化学療法センター看護師長	(1)
	看護教育支援室看護師長	(1)
	褥瘡対策室看護師長	(1)
	がんセンター・緩和ケアセンター看護師長	(1)
	地域医療連携センター看護師長	(1)
	副看護師長	11
	看護師	39
病棟部門	看護師長	22
	副看護師長	53
	看護師	514
	看護補助者	88
外来部門	看護師長	1
	副看護師長	4
	看護師	47
中央部門	看護師長	2
	中央手術部看護師長 中央材料部看護師長（兼任）	(1)
	中央放射線部看護師長	(1)
	副看護師長	7
	看護師	81
	看護補助者	2

（　）は内数　令和７年３月 31 日現在

2）看護体制
(1) 7 対 1 入院基本料
(2) 夜間勤務等看護体制加算取得
(3) ２交替制：16 時間夜勤、12 時間夜勤
(4) 夜勤専従看護師制度

3） 各種会議・委員会・ワーキンググループ

各種会議・委員会・WG名	開催頻度
看護師長会議	月２回
副看護師長合同会議	年１回
教育担当副看護師長会議	月１回
業務担当副看護師長会議	月１回
外来担当副看護師長会議	２か月１回
専門・認定看護師会議	月１回
教育委員会	月１回と随時
業務委員会	月１回と随時
看護情報委員会	月１回
看護情報リンクナース会議	月１回
安全対策委員会	月１回と随時
安全リンクナース会議	月１回
感染リンクナース連絡会議	月１回
褥瘡リンクナース会議	月１回
療養支援ナース会議	月１回
クリニカルパス委員会	月１回
看護部クリニカルパス推進委員会	月１回
クリニカルラダー認定委員会	年３回
ＰＮＳ委員会	月１回
レクリエーション委員会	必要時
クリニカルラダー検討WG	随時
クリニカルラダー改定WG	随時
年報 WG	随時
病床コントロールWG	随時
システム構築WG	随時

4）各種会議　主な会議について記載

⑴ 看護師長会議

看護部門における管理･運営･教育に関する審議や報告を行う。加えて各会議の最終決議をする。

⑵ 副看護師長会議

教育・業務・外来担当全員の合同会議で、各担当会議の前年度評価と2024年度の活動計画について協議し、各担当会議において計画を実施する。

⑶ 教育委員会

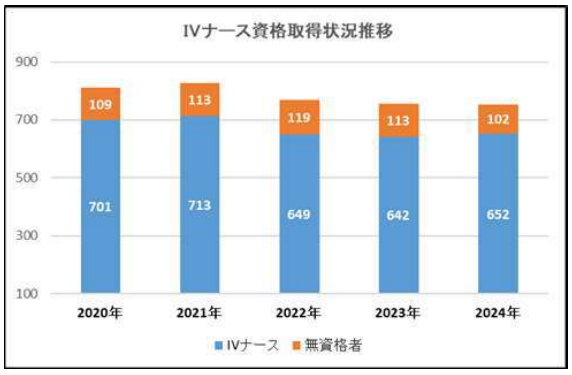
専門的知識を高め、根拠に基づいた看護を提供するための教育プログラムの企画、運営を行った。構成として新人看護職員研修、クリニカルラダーレベル別研修、指導者研修、管理者研修、専門・認定看護師が企画する専門看護研修、院内認定看護師養成研修、講演会など多岐にわたり開催した。

今年度はACPや臨床推論の研修を充実させるとともに、新規講師を５名招聘し、刷新を図った。いずれの研修も参加者の満足度は高い研修となった。

⑷ 業務委員会

看護の質向上をめざし、看護業務の円滑な推進、業務改善・教育を実践した。

IVナース研修を３回実施し、新たに65人のIVナースが誕生し、今年度のIVナース総数は652人、取得率90.7%（昨年より約8.9%増）である。



安全で高度な静脈注射実施と看護師・助産師への指導ができるIVナースインストラターの育成研修を２回開催した。IVナースインストラターの今年度の新規取得者は19人、総数は110人（前年度より７人増）である。CVポートインストラクターは今年度11人認定され、総数34人である。CVポートナースは今年度より認定開始となり、11人のCVポートナースが誕生した。

看護補助者による安全･安心な業務遂行のため、派遣ナースエイド、病院雇用ナースエイド、学生アルバイトナースエイド研修を開催した。

令和６年度診療報酬改定では、新基準へ変更となったが、年間通し、基準１、基準２ともに余裕を持って条件を満たした。

⑸ 看護情報委員会

看護師長用超過勤務申告システム（アプリ）に続き、医療情報と連携しスタッフ用超過勤務申告アプリの開発を行い、入室登録時刻・カルテ閲覧開始時刻・超過勤務申告時間・退室時刻の把握を紙媒体から一枚のエクセルシートへ出力できるシステムが完成した。情報委員の部署にて試行し、改修を重ね、令和７年度より紙媒体からアプリ使用へ完全移行することができた。

新規採用者に対するKAIJU2操作のOJT、記録に関する研修を行った。

看護記録監査では、質的監査シートを改訂し患者の意向記録の定着を推進した。質・形式監査を実施し、部署へ結果のフィードバックを行った。

⑹ 安全対策委員会

新規採用者が安全に業務を遂行できるよう、例年通り新規採用者注射･与薬研修、心電図モニター基礎研修、注射・与薬指導者研修を実施した。また、麻薬管理に関する研修として、期間を設定し全看護師・助産師を対象に教育用動画を視聴してもらった。麻薬・向精神薬・注射カートの取り扱いに関する取り決め事項を６年ぶりに改定をした。

安全リンクナースは看護部安全対策委員会と協働し、患者誤認対策・転倒転落対策・内服薬在室管理・身体拘束対応のグループに分かれ課題にむけて計画的に活動に取り組んだ。

患者誤認に関するインシデントとしては書類などの看護師のもつ手元情報と患者名の確認不足が多かった。患者照合の手順遵守と行動の定着を図るため安全リンクナースにて「書類の返却」「同意書の確認」手元情報を確認する２場面のトレーニングツールを作成し各部署での教育を行った。このように患者誤認は対策強化を試みたが減少に至らなった。

転倒転落防止対策として現在使用しているスコアリングで日々のリスク評価を強化することで対策を継続した。

⑺ クリニカルパス委員会

クリニカルパスによる医療の質向上と負担軽減を目的に時間外入院クリニカルパスの活用推進に取り組んだ。医療の質向上では、クリニカルパスにおける患者視点のアウトカムの設定に取り組み、特にNRSなどの疼痛管理に関する具体的な設定を

推進した。該当するクリニカルパスのアウトカムには NRS によるアウトカムが設定されるようになった。時間外入院クリニカルパスは、各部署で作成され、時間外クリニカルパスの利便性について理解されたことで使用率も向上した。
しかし、利便性の良さから継続して利用されていることが散見されるため、治療や検査に関するクリニカルパスへすみやかに変更されることが今後求められる。

⑻ 病床コントロールワーキンググループ
効率的かつ効果的な病床運用に向けて情報交換を実施した。空床利用担当の看護師長が効率的に活動できるように支援した。

5）実習生・研修生等受け入れ（令和６年度）
○看護実習生受け入れ状況

学校名	学年	人数
熊本大学医学部保健学科（基礎看護実習）	1	70
熊本大学医学部保健学科（成人・母性・小児・精神看護実習）	3	306
熊本大学医学部保健学科　統合	4	73
九州看護福祉大学看護学科　成人	3	18
九州看護福祉大学　統合	4	17
熊本保健科学大学　小児・精神	3	38
熊本保健科学大学　統合	4	8
熊本大学医学部医学科早期臨床体験実習（看護実習）	2	110
熊本大学医学部医学科臨床実習入門（看護実習）	4	99

○研修生受け入れ

派遣施設	人数	研修先
熊本大学薬学部薬学科学生看護業務研修	36	東病棟５階 西病棟９階

○施設見学受け入れ

施設名	件数	場所
大分循環器病院	2	中央手術部
大分大学	1	東病棟５階
産業医科大学	3	中央手術部
ドイツハイデルベルク大学	1	中央手術部　ＩＣＵ
横浜市立大学	1	中央手術部　ＩＣＵ
九州大学	1	中央手術部
水俣市立市総合医療センター	1	中央手術部
熊本市民病院	1	中央手術部
済生会熊本病院	1	中央手術部
伊東歯科口腔外科病院	1	中央手術部
もりの歯科クリニック	1	中央手術部　歯科外来
熊本学園大学付属高等学校	1	東病棟２階
日本内視鏡外科学会	5	中央手術部

５．看護実践

１）専門性の高い看護の提供
⑴ 看護提供方式
①パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）
②熊本大学病院におけるプライマリ・ナーシング

⑵ 人的資源

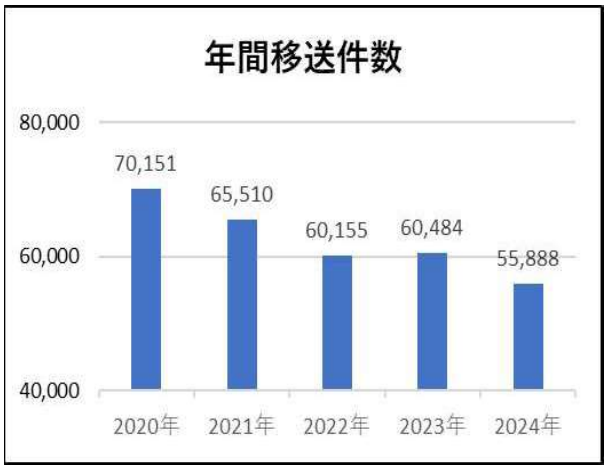
認定看護管理者（日本看護協会）	3
専門看護師（日本看護協会）	5
認定看護師（日本看護協会）	18
認定ＣＲＣ（臨床研究コーディネーター）	4
認定看護管理者ファーストレベル修了者	71
認定看護管理者セカンドレベル修了者	34
認定看護管理者サードレベル修了者	5
特定行為研修（外科術後病棟）修了者	19

令和７年３月 31 日現在

６．教育の体系化

１）クリニカルラダーシステム
本院のクリニカルラダーシステムは、キャリアラダーである。看護師の実践評価指標として定着しており、キャリアデザインの構築等のキャリア開発にも活かされている。

⑴ 現任教育
＜教育理念＞
一人ひとりの人権を尊重し、信頼と安全安心な看護を提供できる看護職を育成する
① 院内教育
院内教育は、ラダーレベル別研修や育成研修、研究会・報告会・講演会、専門分野の看護師による自主研修があり、研修別コース数は下記のとおりである。e-learning による研修前学習、ハイブリッド講演会等を拡充した。
② 院外教育
日本看護協会、熊本県看護協会、各種学会・研究会主催の研修に自主的に参加している。

７．患者移送支援室

看護師の業務負担軽減と効率化を図る事を目的として、2014 年４月に開設され、主な業務として入院患者の移送・同伴歩行と車椅子移送・ストレッチャー移送の同伴・転棟に伴う患者の荷物等の移送を行っている。昨年度から外来移送支援業務も加わった。外来での業務は、総合案内における受診受付の手伝い、各ブロックからの依頼（薬剤・検体の受領、輸血の運搬、ストレッチャー移送同伴）対応であった。12 月、くすのきテラスオープンに伴い、外来患者の調剤薬局への案内も開始した。看護業務の負担軽減だけではなく、中央放射線部、リハビリ室、各種検査部門のスムーズな運営（患者到着遅延の減少・待合室混雑緩和等）にも貢献している。